

新しい社会指標からみる
日本の幸福
—インターネット調査結果からの抜粋—
平成24年9月28日
幸福度研究ユニット

1

生活の質に関する調査で132指標中
46指標をカバー

- 第1回生活の質に関する調査(訪問留置法)により、38指標が調査された。
- 第1回生活の質に関する調査(インターネット調査)により、さらに8指標が追加で調査された。
- 両調査に共通する指標から判断すると、インターネット調査結果には訪問留置法と比較し、バイアスがかかっていると考えられる。
 - 詳しくは資料4「生活の質に関する調査と他の統計調査の比較」のまとめを参照。

2

インターネットで追加となる指標群

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 孤立感 | [報告書P26] |
| 2. 地域とのかかわり度 | [報告書P27] |
| 3. 制度・組織への信頼 | [報告書P35] |
| 4. 他者への信頼 | [報告書P37] |
| 5. 自己有用感 | [報告書P41-42] |
| 6. 疎外感 | [報告書P46-48] |
| 7. うつ | [報告書P49-51,P83-85] |
| 8. 希死念慮 | [報告書P86-88] |

3

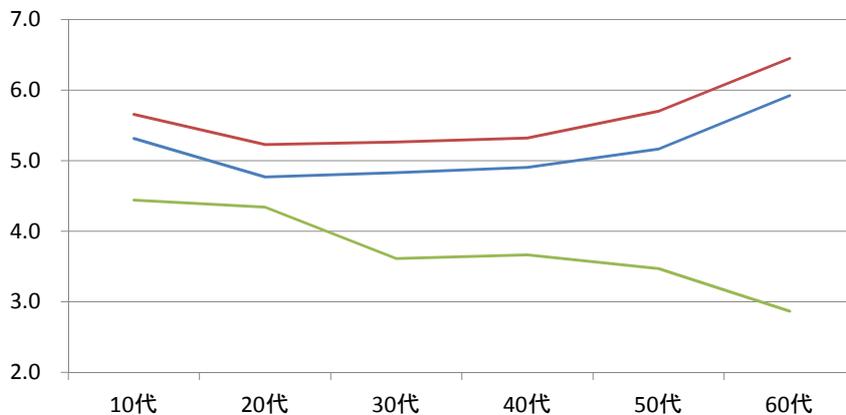
1. 孤立感・孤独感[報告書P26]

○ここ一週間の気持ちを聞く際の一項目として調査。

○(全く感じなかった:0点⇒常に感じた:10点)

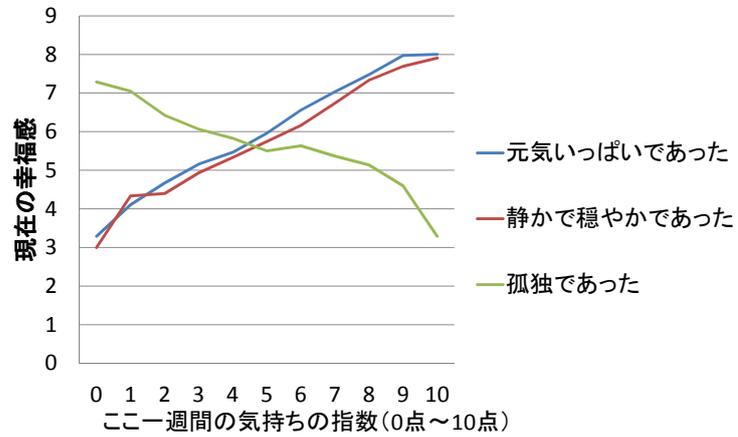
○年代別には、若年層が孤独。

— 元気いっぱいであった — 静かで穏やかであった — 孤独であった



4

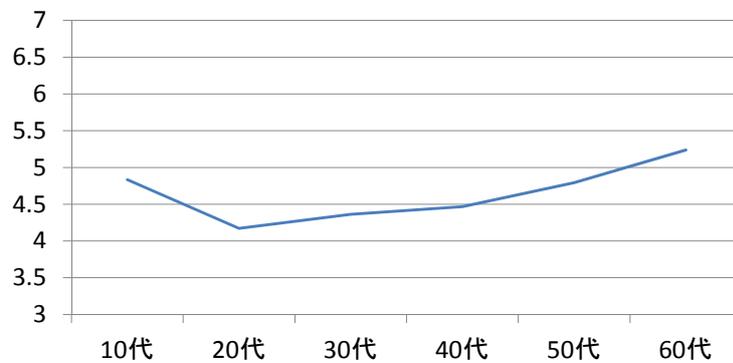
孤独感が強いと現在の幸福感は低い



5

2. 地域とのかかわり度[報告書P27]

- 地域社会での役割には満足していない人が多く、年代別にはJ字形
- 全く満足していない:0点⇒非常に満足している:10点
- 現在の幸福感との相関係数は有意(0.43)だが、他の項目より係数が小さい



6

3. 制度・組織への信頼[報告書P35]

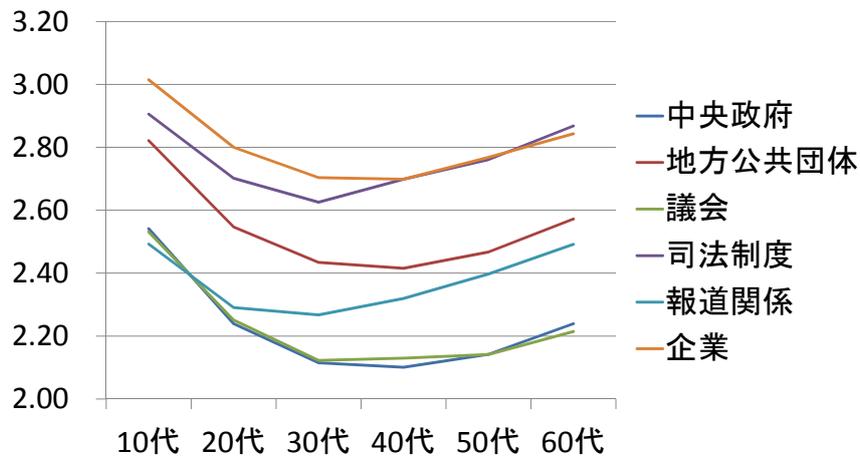
ほとんどの組織が信頼されていない。

	全く信頼していない	どちらかという信頼していない	どちらでもない	どちらかという信頼している	非常に信頼している	信頼していない	信頼している
中央政府	26.1	36.9	29.5	7.1	0.4	63.0	7.5
地方公共団体	14.9	33.9	37.5	13.1	0.6	48.8	13.7
議会	24.8	37.1	32.7	5.1	0.4	61.9	5.4
司法制度	11.8	25.6	40.4	20.6	1.6	37.4	22.2
報道関係	21.3	31.8	36.3	10.1	0.5	53.0	10.7
企業	8.6	22.8	51.6	16.3	0.8	31.4	17.1

7

30代、40代が不信

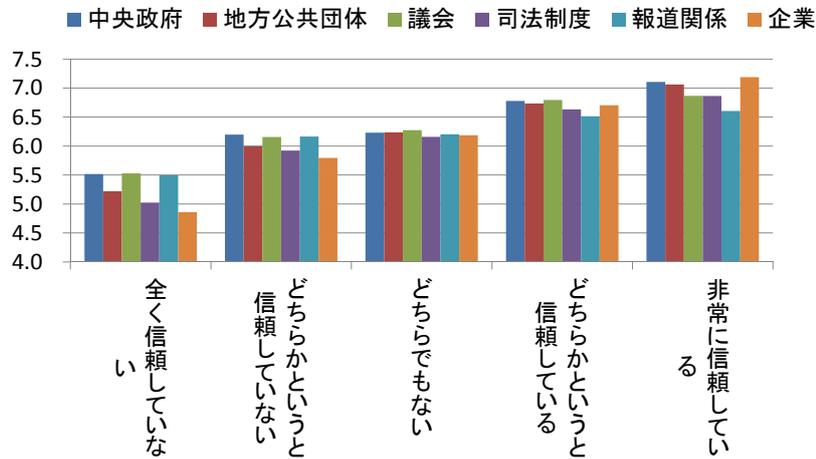
(全く信頼していないを1、どちらかという信頼していないを2、どちらでもないを3、どちらかという信頼しているを4、非常に信頼しているを5として指数化)



8

幸福度との関係

(縦軸が現在の幸福感)



9

4. 他者への信頼[報告書P37]

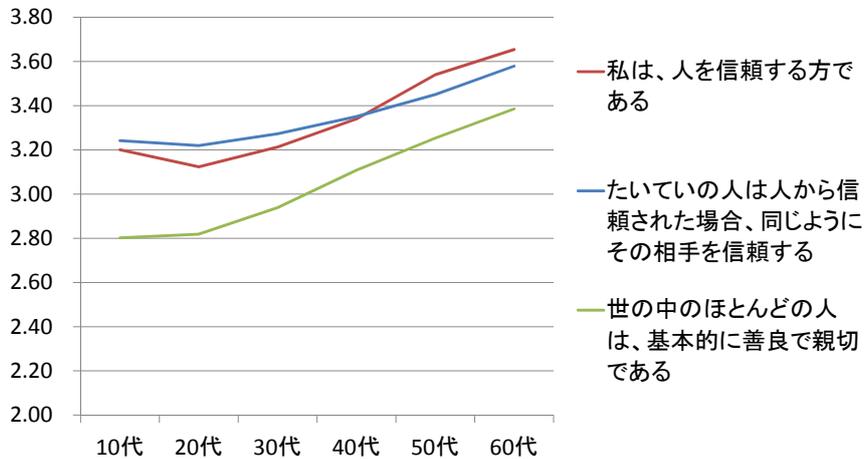
○「ほとんどの人は基本的に正直である」については、そう思わないと回答した人の割合の方が大きい

	全くそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそうだと思う	非常にそのとおりだと思う	そう思わない	そう思う
世の中のほとんどの人は、基本的に正直である	10.0	25.2	33.7	29.9	1.2	35.2	31.1
私は人を信頼する方である	4.6	12.8	28.5	48.2	6.0	17.3	54.2
世の中のほとんどの人は、基本的に善良で親切である	6.4	17.4	37.5	36.9	1.8	23.8	38.7
世の中のほとんどの人は、他人を信頼している	6.5	22.8	43.9	25.8	1.1	29.3	26.9
世の中のほとんどの人は、信用できる	10.2	25.0	41.7	22.0	1.0	35.2	23.1
たいていの人は人から信頼された場合、同じようにその相手を信頼する	4.2	11.1	33.1	45.8	5.8	15.3	51.6
世の中には偽善者が多い	2.3	15.0	49.3	24.7	8.8	17.3	33.5

10

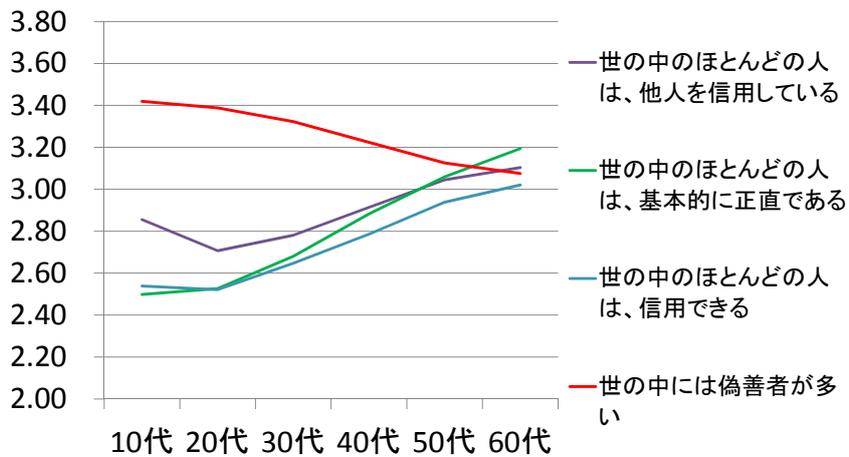
年齢別には、高齢層で信頼度が高い

全くそうは思わない: 1、どちらかといえばそう思わない: 2、どちらともいえない: 3、どちらかといえばそうだと思う: 4、非常にそのとおりだと思う: 5として指数化



11

若年層ほど偽善者が多いと考える



12

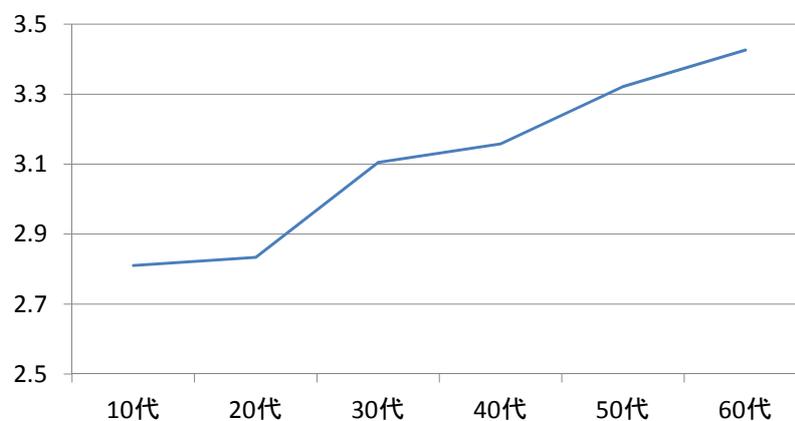
5. 自己有用感[報告書P41-42]

- 自己有用感は、「自分の属する集団の中で、自分がどれだけ大切な存在であるかということ」を自分自身で認識すること」である。
- 「誰かに関心を持たれていると感じる」、「自分が役に立っていると感じる」、「自分の役割があると感じる」などの感覚は、自己有用感・居場所感と呼ばれ、我が国の教育分野で特に重視されている。

13

年代別には、若年層が低く、高齢層が高い

全く当てはまらない: 1、どちらかという当てはまらない: 2、どちらでもない:
3、どちらかといえば当てはまる: 4、非常に当てはまる: 5として指数化



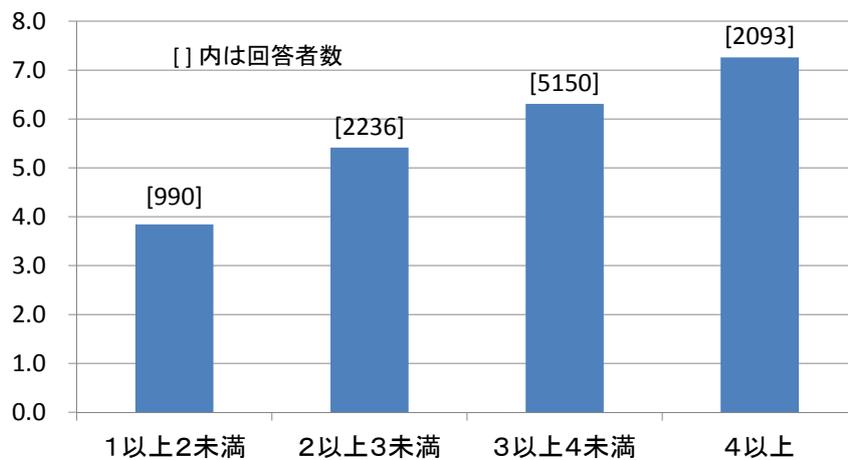
14

就業状態別には若年無職等、完全失業者、専業主夫、学生で低く、就業者、専業主婦で高い。

	男性	回答者数	女性	回答者数	全体	回答者数
失業者	2.5	92	2.7	45	2.6	137
専業主婦・主夫	2.6	25	3.5	858	3.5	883
学生	2.8	279	2.9	188	2.8	467
無職等(定年退職者含む)	3.0	473	3.0	125	3.0	598
30代以下	1.9	32	2.1	24	2.0	56
40代以上	3.1	441	3.2	101	3.1	542
就業者	3.1	4292	3.3	2590	3.2	6882
全体(分類不能を含む)	3.1	5161	3.3	3806	3.2	8967

15

自己有用感が低いと現在の幸福感も低い



16

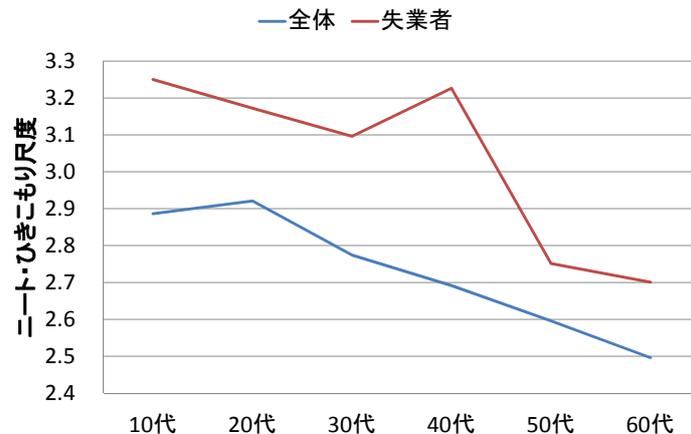
6. 疎外感(ニート・ひきこもり尺度) [報告書P46-48]

- ニートやひきこもりの心理的傾向を捉えるために、フリーター生活志向性、自己効能感の低さ、将来に対する不明瞭な目標という項目からなる合計28の質問群について、調査。
- 疎外感を測定する指標として、幸福度指標試案に含まれている。

17

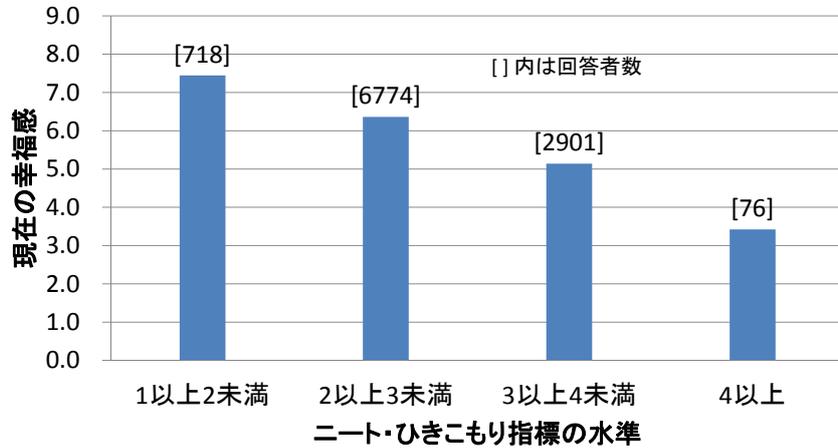
失業者・若年層で高いニート・ひきこもり尺度

全くそう思わない:1、そう思わない:2、どちらでもない:3、そう思う:4、常にそう思う:5、として指数化



18

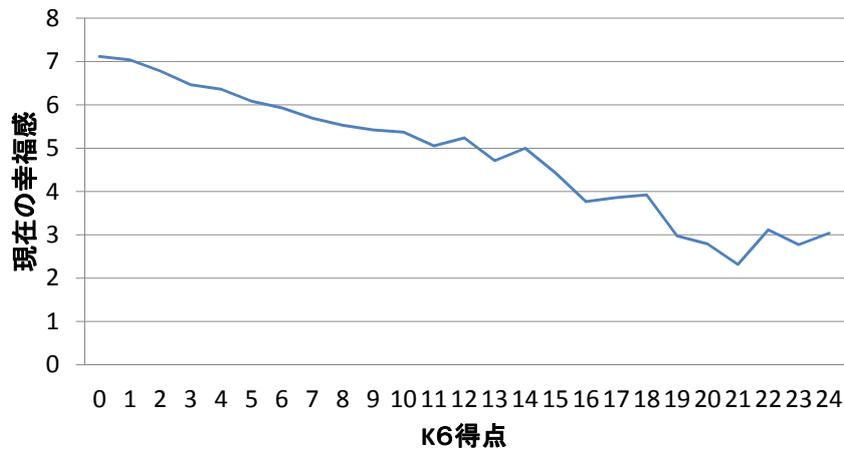
ニート・ひきこもり尺度が高いと幸福感が低い



19

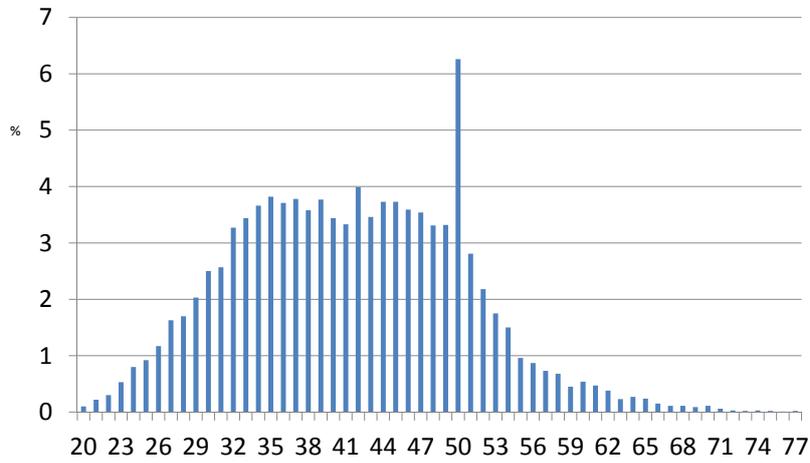
7. うつ尺度[報告書P49-51,P83-85]

① K6尺度と呼ばれる心理的ストレス反応を測定するための尺度に基づいた質問も調査したところ、K6尺度が高いと現在の幸福感は低い



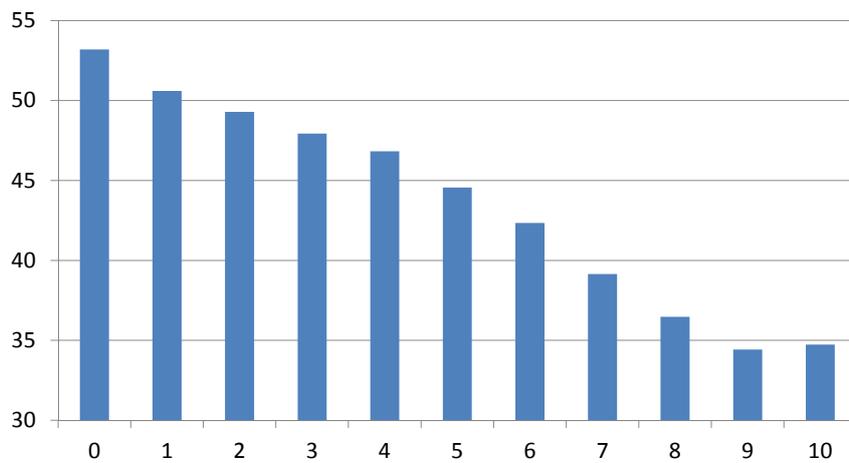
20

②20問からなるツング自己評価式うつ尺度(SDS)と同じ問を調査した結果の分布



21

現在の幸福感とSDS
(横軸幸福感、縦軸SDS)



22

8. 希死念慮[報告書P86-88] 幸福感と明確な関係

現在の 幸福感	死のうとした ことがある	本気で死のう と思ったこと がある	どちらもない	答えたくない
0	30.6%	22.4%	33.9%	13.1%
1	15.1%	28.5%	49.7%	6.7%
2	18.7%	23.9%	49.0%	8.5%
3	14.3%	19.6%	53.8%	12.3%
4	12.2%	18.4%	57.2%	12.1%
5	9.3%	13.7%	68.6%	8.4%
6	8.2%	12.9%	70.9%	7.9%
7	8.3%	11.2%	75.6%	4.8%
8	6.1%	10.2%	78.4%	5.3%
9	8.1%	8.1%	80.4%	3.4%
10	10.0%	9.4%	75.7%	4.9%

23

論点

- これらの新しい指標から、どのようなことが分かるか？
- これらの指標の政策的インプリケーションは何か？
- これら指標のうち、訪問留置法の調査と入れ替えることが適切な指標はあるか？

24